

中学校国語科「読むこと」における知識や経験を結び付けながら 自分の考えを広げ深める学習指導

—単元計画表を活用した支援、考えの形成を促す交流の工夫、考えの変容に気付けるようにする支援を通して—

令和5年度 前橋長期研修研究員
前橋市立明桜中学校 三好 智子

研究の概要

研究のねらい

「読むこと」の学習において、文章を読んで理解したことと知識や経験を結び付けながら自分の考えを広げ深める生徒を育成するために、単元計画表を活用した支援、考えの形成を促す交流の工夫、考えの変容に気付けるようにする支援を取り入れることの有効性について、実践を通して明らかにする。

【生徒の実態】

- 文章を読んで理解したことと自分の知識や経験を結び付けて考えたことを、分かりやすくまとめることがなかなかできない。
- 考えを共有する際に他者の考えを読んだり聞いたりするに留まり、自分の考えを広げたり深めたりすることができない。

【指導上の課題】

- 文章の内容を自分事として捉えたり、考えを共有する必要感を高めたりできるような言語活動や課題設定の工夫が必要である。
- 文章の内容や展開の読み取り、教師主導の言語活動などに留まり、生徒の考えを広げたり深めたりする場を十分に設けられていない。

学習過程

生徒の考え

構造と内容の把握

精査・解釈

考えの形成、共有

多分、〇〇ということが大切なんだろうな。



文章を読んで〇〇ということが大切だと分かったぞ。



筆者の主張について、私は〇〇〇〇ということが大切だと考えます。なぜなら、△△△だからです。



【手立て1】

単元計画表を活用した支援

本時のめあてと活動内容の確認

- 単元計画表を配付し、拡大したものを掲示する。
- 「結び付いた知識や経験」の蓄積
- 単元計画表に「結び付いた知識や経験」欄を設け、生徒が書かためられるようにする。
- 生徒の記述に対して教師がコメントしたり、授業で取り上げたりする。

【手立て2】

考えの形成を促す交流の工夫

個で考えたことの共有

- 似た考えの生徒同士のグループをつくる。

グループでの交流

- 結び付いた知識や経験を生かしながら、グループで考えをまとめる活動を設定する。

全体での交流

- グループでまとめたことをクラス全体で共有する場を設ける。

【手立て3】

考えの変容に気付けるようにする支援

単元末に考えを比較する活動

- 単元の中に考えを表出する場を設ける。
- 単元の導入と終末の考えを比較する場を設ける。

「読むこと」において、文章を読んで理解したことと知識や経験を結び付けながら自分の考えをもち、他者との交流を通して考えを広げ深める生徒

実践の概要

第2学年 論理を捉えて「モアイは語る—地球の未来」(論説) 全6時間

《目標》

- ・意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。【知(2)ア】
- ・「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開について考えている。【思C(1)エ】
- ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。【思C(1)オ】
- ・粘り強く論理の展開について考え、学習の見通しをもって筆者の主張に対する自分の考えをまとめて伝え合おうとしている。【態】

《単元の課題》

筆者の主張を受け止めて、地球の未来のために私たちができることを考えよう。

《言語活動》

単元の課題に対する考えを筆者の論理の展開を活用してグループでまとめ、発表しよう。

【本単元における手立ての位置付け】

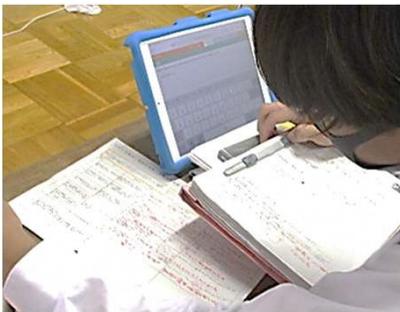
時数	学習過程	手立て1	手立て2	手立て3	
1	構造と内容の把握	単元計画表を活用した支援		考えの変容に気付けるようにする支援	
2	精査・解釈				
3				考えの変容に気付けるようにする支援	
4	考えの形成、共有			考えの形成を促す交流の工夫	
5					
6					考えの変容に気付けるようにする支援

手立て1 単元計画表を活用した支援

第1時で単元計画表を配付し、授業で結び付いた知識や経験を書きためていくことができるようにしました。

本時のめあてと活動内容の確認

単元計画表を教室の横黒板に掲示し、毎回授業の導入で本時のめあてと活動内容を確認しました。



単元計画表を見て、前時の振り返りと本時のめあてを確認している様子

めあてや活動内容が確認できると、毎時間の授業の目的がはっきりして、うやむやな気持ちで授業を受けることが少なくなりました。その日の授業で身に付けたことが分かり、次の授業もしっかり覚えた状態で臨めました。

(生徒の振り返りより)



6	5	4	3	2	1	時間	授業
返つて単元の課題に対する自分の考えをまとめよう。	これまでの学習を振り返って単元の課題に対する自分の考えを振り返る。	単元の課題に対する考えを筆者の論理の展開を活用してグループでまとめ、発表しよう。	単元の課題に対する考えを筆者の論理の展開を活用してグループで協力してまとめよう。	なぜ筆者は地球の危機を訴えるのにイースター鳥のことを示したのか考えよう。	なぜ筆者の文章は分かりやすいのか、説明の工夫を捉えよう。	1	めあて
		スライドを発表する。	テーマについてグループで話し合ってからスライドにまとめる。	結論を読んで、筆者の主張を捉えて単元の課題に対する自分の考えをまとめる。	単元の課題について考えながら序論・本論を読んで、論理の展開を考える。		活動内容

「結び付いた知識や経験」の蓄積

単元計画表に、「結び付いた知識や経験」欄を設け、毎回授業の終末で生徒が書きためるようにしました。なおかつ、教師が朱書きのコメントを記入したり、次時の授業の導入等で取り上げて紹介したりしました。



結び付いた知識や経験をメモすることで、国語以外で学んだこととも関連付けて考えることができ、学習のつながりを感じました。

友達の結び付いた知識や経験を聞くと、新たな知識が増えたり思い出したこともあったりして楽しかったです。

(生徒の振り返りより)



【第3時】
英作文を書く時に、文章の構成で悩んだことがあるので、国語で学んだ筆者の論理の展開を使って次回は英作文を書きたいです。

【第5時】
環境に配慮した再生紙だけでなく、食べられる包装紙の発表を聞き、私も知っていたので思い出しました。他にもどんなものが開発されているのか調べてみたいです。

「結び付いた知識や経験」欄への生徒の記述



教師の朱書きによるコメント

手立て2 考えの形成を促す交流の工夫

精査・解釈を通して単元の課題について個で考えたことを基に、グループで交流してまとめ、発表する学習活動を取り入れました。

個で考えたことの共有（Google Jamboardの活用）

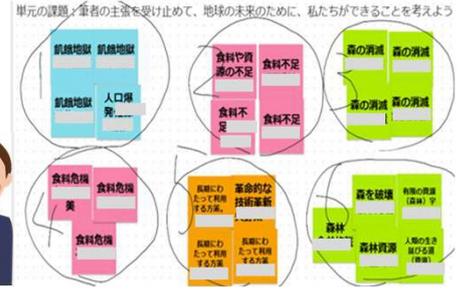
単元の課題について個で考えたことの基となるキーワードをJamboardの付箋に入力し、全体で共有しました。さらに付箋を分類整理し、同じテーマでグループをつくりました。



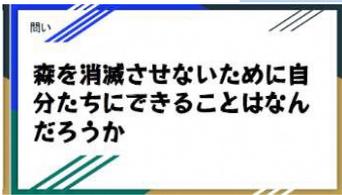
「森林資源」と「食料問題」に着目している人が多いことが分かりました。

初めは自信がなかったけれど、友達の考えを見て、安心しました。

（生徒の振り返りより）



グループでの交流（Googleスライドの活用）



あるグループのスライドの一部

説得力のある根拠を示そう。

根拠は複数示そう。



ニュースで成長の早い竹は増えて過ぎて困っているのを見たよ。

それ、私も知っているよ。

各グループでは、筆者の説得力のある論理の展開（問い→答え→根拠）を用いて、グループとしての考えをスライドにまとめました。

全体での交流（Googleスライドの活用）

新たなことに気付いたり自分の考えを見直したりするために、グループでまとめたスライドの発表会を行いました。発表を聞く際には、自分や自分のグループの考えと比べながら聞くように促しました。



いろいろな解決策を聞いて、私たちにできることが他にもたくさんあることが分かりました。地球の未来のために取り組みたいです。

一緒に考えをまとめてきた仲間と発表したから、自信をもってみんなに伝えられたよ。



手立て3 考えの変容に気付けるようにする支援

考えの変容に気付けるようにするために、単元の中で意図的に単元の課題に対する自分の考えを表出する場を設定しました。（全3回）

考えを表出する具体的な場面

- 第1時 単元の課題を知り、読む目的を明確にしてから読んだ後
- 第3時 精査・解釈をしてから筆者の主張を読み取った後
- 第6時 グループでまとめたスライドの発表会の後



単元末に考えを比較する活動（AIAIモンキー※の活用）

単元を通した考えの変容に気付けるようにするために、AIAIモンキーで第1時と第6時で表出した考えを比較する活動を設定しました。

※AIAIモンキーとは、話し合い活動を活性化させるファシリテーション支援ツール

私と似た考えの人がいるな。



学習者用端末を使って第1時と第6時の自分の考えを比較している様子

他の人の考えを見たり、テキストマイニング機能を使ったりして、個人やクラス全体の考えを比較しました。

比較して見付けたことをペアやクラスで出し合いながら、考えの変容に気付くことができるようになりました。



筆者の主張に関係する「森林」に関する単語が増えているよ。

抽象的だった考えが具体的に becoming more specific.

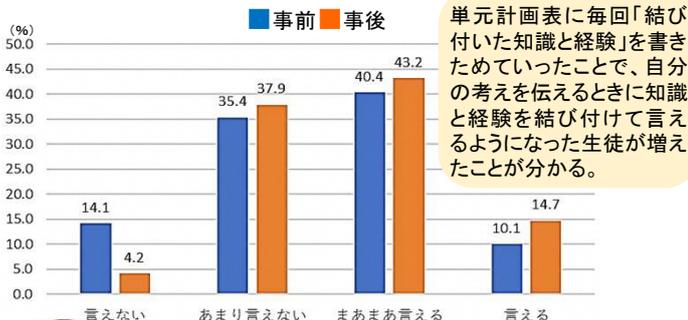
AIAIモンキーの画面を見て、考えの変容について気付いたことをペアで出し合っている様子

研究のまとめ

手立て1 単元計画表を活用した支援

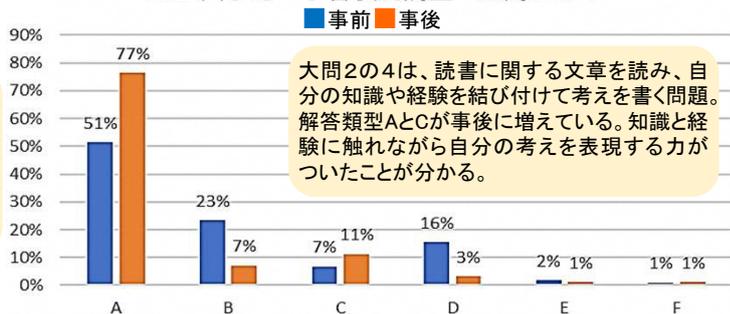
事前事後アンケートの結果

設問：説明文を読んで考えたことについて話し合う時に、自分の知識や経験を結び付けて自分の考えを言えますか。



単元計画表に毎回「結び付いた知識と経験」を書きためていったことで、自分の考えを伝えるときに知識と経験を結び付けて言えるようになった生徒が増えたことが分かる。

R5全国学力・学習状況調査 大問2の4



大問2の4は、読書に関する文章を読み、自分の知識や経験を結び付けて考えを書く問題。解答類型AとCが事後に増えている。知識と経験に触れながら自分の考えを表現する力がついたことが分かる。

解答類型	生徒の記述					
	A	B	C	D	E	F
①着目したところに線を引いている	○	○	○	○	×	無解答
②自分がどのように本を読んでいきたいかを具体的に書いている	○	○	×	×	×	無解答
③自分の読書体験に関する経験や知識に触れながら書いている	○	×	○	×	×	無解答



授業の初めに、めあてを確認し活動内容をつかんでおくことで、授業中に困ってしまうことが少なくなりました。振り返りには、毎回先生からのコメントがあって、励みになりました。
(生徒Aの振り返りより)

手立て2 考えの形成を促す交流の工夫

生徒Bの交流前後の記述 (交流前)

イースター島が食料不足に陥ったのは、森の消滅が原因です。私達はイースター島と同じ運命をたどらないために、食料生産に関して何か技術開発できれば良いと思います。



食料生産に関する技術開発は、成長速度の促進や肥料の開発、遺伝子組み換え等工夫がすでにされていることが分かりました。「食料」に着目した他のグループの発表からは、身近なフードロス問題が出され、給食の時などすぐに私達にも取り組める活動なのでやりたいと思いました。

(交流後)

交流前は「食料生産」に着目しているが、グループでの交流を通して「食料生産」の内容が詳しくなり、全体での交流後には「フードロス」にも着目して、給食を想起するなど、考えが深まっていることが分かる。

生徒Cの交流前後の記述 (交流前)

森林は文明を守る生命線なので、地球がイースター島のようにならないようにするために森林資源を無駄遣いをしないで再利用をもっとすべきだと思います。



森の消滅を防ぐ取り組みとして、再利用だけでなく木の代替商品の開発や植林の工夫などたくさんの方策があることを知りました。人類が生き延びるために人口の増加による食料不足を解決する必要もあり、農耕地の再開発や食料の物流も見直さなければならないと思いました。

(交流後)

交流前は「森林資源」に着目しているが、全体の交流を通して、人口の増加による「食料不足」にも目を向けることができ、単元の課題に対する考えが広がっていることが分かる。

手立て3 考えの変容に気付けるようにする支援

生徒Dの第1時と第6時の考え (AIAIモンキーへの入力)

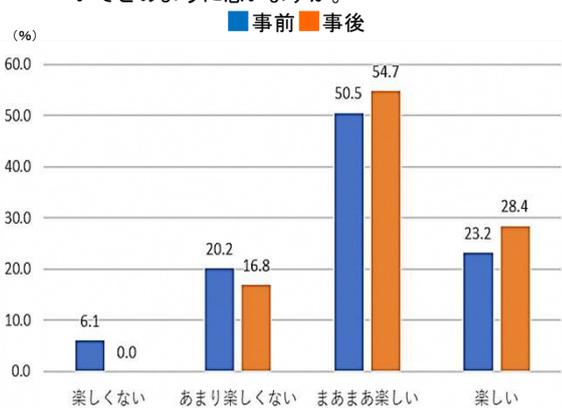
第1時	第6時
地球の限りある資源を無駄遣いしないで効率よく持続可能な社会を目指す。リサイクルなど再利用できるものはして資源を守る。	資源を守る必要がある。森林だったら伐採しなくてもよいものは違うもので代用して伐採を減らしたり、長く使って持続可能にしていくなどの誰にでも取り組めることをする。食料だったらフードロスを無くしたり、世界に平等な食料を届けられる物流にすることが大切だと思った。全ての資源において無駄遣いをしないで長く使い、再生可能で持続可能を実現する必要がある。

生徒Dの気づき

これまでの授業で地球の現状と問題点を知り、これからはなければならぬ資源を守る具体的な対策が分かった。

事前事後アンケートの結果

設問：説明文を読んで、自分の考えを誰かに話したりタブレットやワークシートなどに書いたりする活動についてどのように思いますか。



自分で考えたりグループや全体で交流したりすることによって考えが広がったり深まったりすることに気づき、考えを表出することへの抵抗感が下がった。

あるクラスの第1時と第6時の「わくわくの実※」の変容と全体で共有した気づき



- ・単語(言葉)が増えた。
- ・抽象的な考えから具体的な考えになった。
- ・筆者の主張を捉えられた。
- ・様々な観点で考えられるようになった。
- ・課題を自分事として捉えられた。

※わくわくの実とは、AIAIモンキーを活用して入力した意見をテキストマイニング機能で可視化したもの。

成果と課題

- 生徒は単元の課題をより身近に感じ自分事として捉えたことによって、目的をもって教材文を読み、教材文を読んで理解したことと知識や経験を結び付けながら考えをまとめることができた。
- 自分の考えを他者と交流することで広げ深めることができ、考えの変容に気づき、成長を実感できた。
- ◇生徒が読む目的をもつだけでなく、追究意欲をより高めるためには生徒が自ら課題を見出し、設定できるとよい。
- ◇「読むこと」における実践に留まらず、他の領域においても、継続的に指導していく必要がある。